

大賀 典雄さんを偲んで

日本オーディオ協会 理事
森 芳久

ソニー株式会社相談役（元同社会長）の大賀典雄さんが、4月23日多臓器不全でご逝去されました。享年81歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

大賀さんは、東京藝術大学音楽学部、ベルリン国立音楽大学を卒業、嘱望されていた音楽家の道を歩むと同時に、ソニーの創業者井深さんと盛田さんに請われて、ソニーに入社されました。

二人の創業者は、大賀さんの音楽的知識はもちろんその卓越した電気・機械への知識を高く評価し、商品に対するアドバイスをお願いし、既に学生時代よりソニー嘱託社員として遇していたのです。

その後、音楽家の道を捨てソニーの経営者に専念した大賀さんは、文字通りソニーの指揮者として数々の業績を上げられました。

1968年には、「ソフトとハードは車の両輪」として、レコード会社CBS・ソニーレコード（現ソニー・ミュージックエンタテインメント）を立ち上げ、また「SONYの4文字がソニーの最大の財産」を掲げて、ソニーを世界で最も高いブランドの一つにまで育てることに成功されました。

1982年に誕生し、デジタルオーディオ時代を拓いたCDの推進についても大きな業績を残されました。

1982年、代表取締役社長就任。1989年、CEO就任。1995年、代表取締役会長就任。2006年よりは相談役としてソニーを見守ってこられました。その間、(社)日本経済団体連合会副会長、(財)東京フィルハーモニー交響楽団会長など数多くの団体の要職も務められてきました。また、その業績を称え勲一等瑞宝章はじめ国の内外から多くの受章をされています。

還暦を過ぎてからは、指揮者として世界の多くの著名管弦楽団の指揮をされ、音楽家としても活躍されました。

私は、ソニー在籍中に大賀さんとはいろいろな場面でお付き合いをさせて頂く機会に恵まれました。その中で強く私の思い出として残っている出来事をご紹介しますと思います。



ベルリン・フィルを指揮される
大賀さん（2000年）

画像管理：ソニー広報センター

それは 1989 年、私が担当したスピーカーを聴いてもらうため、大賀さんのご自宅に伺ったときのことでした。大賀さんは、そのスピーカーを聴きながら「なかなか良い音だと思うけど、どうしてソニーのスピーカーは評判が上がらないのだろうか。家のレッスン室に置いてある JBL は JBL というだけで皆が感心する。君の次の仕事はソニーのスピーカーのイメージを JBL のように上げることだね」と私に命じたのでした。

さっそく、私はレッスン室に飛び込み、大賀さん自慢の JBL 『ミニゴン』を聴きました。JBL の名器に 『パラゴン』があります。そのデザインも音も伝説となっているものです。そしてまた 『ミニゴン』も小型ながら「山椒は小粒でも・・・」の風格を持っています。

大賀さんも少し得意そうでした。私もこのスピーカーは昔から欲しいスピーカーのひとつでした。私はとっさに大賀さんに「大賀さん、ソニーの親分が他社のスピーカーを愛用しているようでは、ソニーのスピーカーのイメージは未来永劫上がりません。さっそくこのスピーカーは撤去します。私が今から持ち帰ります」と言ったのです。大賀さんは一瞬驚いた表情で私を見つめました。しかしさすが大軍の将、次の瞬間「わかった、これは君に上げるよ」とニッコリと笑ったのです。私は大喜びで、直ぐに車に積んで自宅に持ち帰りました。

次の日会社に出勤すると、朝一番で大賀さんから電話がかかってきました。「森君、君に上げた JBL だけど・・・」。私は慌てて「大賀さん、まさか返せと言うのではないですよ。男に二言は・・・」。電話の向こうで大賀さんの笑い声が聞こえました。「いや、実はあのミニゴンのスペアのユニットも買ってあるので、それも上げようと思って今日会社に持ってきてある。いつでも取りに来なさい」。このときほど自分の浅ましさを思い知らされたことはありませんでした。同時に、仕事では妥協を許さない厳しい大賀さんの内面の優しさを感じました。

その後、何故か大賀さんが所有していた海外のオーディオ名器たちが、私の家に引っ越してくるようになったのです。おかげで、それらの名器たちが我が家で今日も素晴らしい音で鳴っています。それはまるで大賀さんの音楽が鳴り響いているようです。きっと大賀さんも今天国で素晴らしい音楽に囲まれていることでしょう。いやその音楽をご自身もまた奏でているのかもしれない。

大賀さん、ありがとうございました。どうぞ、ミュージックの世界で安らかにお休みください。

合掌